

# アルミ導体

Aluminum bus-bar

1960年前後の建設工事の急増とともに、  
導電材料である銅の使用量が年間  
約500トンに達し、その経費が工事費に占める  
割合も増大した。これを軽減するため、  
銅に代わるアルミニウム導体の導入を進めた。  
アルミニウムは価格が安く、当時はすでに  
腐食の問題も解決されており、直流の大電流を  
必要とする電気通信分野に向いていた。

